

## 船舶事故調査報告書

平成31年2月20日  
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	衝突（岸壁）
発生日時	平成30年7月26日 19時50分ごろ
発生場所	千葉県千葉港千葉第3区の企業岸壁 千葉港丸紅シーバース灯から真方位007° 1,350メートル付近 (概位 北緯35° 36.5′ 東経140° 04.8′)
事故の概要	貨物船第八芙蓉丸は、離岸作業中、岸壁に衝突した。
事故調査の経過	平成30年9月25日、主管調査官（横浜事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取実施済
事実情報	
船種船名、総トン数	貨物船 第八芙蓉丸、499トン
船舶番号、船舶所有者等	140174、芙蓉海運株式会社
乗組員等に関する情報	船長、四級（航海）
負傷者	なし
損傷	本船 右舷船尾部外板に凹損 岸壁 車止めに擦過傷
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 南、風力 1、視界 良好 海象：海上 平穏、潮汐 下げ潮の中央期 日没時刻：18時50分ごろ
事故の経過	<p>本船は、船長ほか4人が乗り組み、小麦1,180tを積載し、宮城県石巻市石巻港に向かう目的で、船首を南東方に向けて右舷着けしていた千葉港千葉第3区COバースからの離岸作業を開始した。</p> <p>本船は、船橋で単独の操船について船長が、主機の後進、前進を繰り返しながら離岸作業中、主機を後進としたところ、船尾配置の機関士から後方の企業岸壁に接近しているとの報告を受け、直ちに主機を前進としたものの、船首が南南東方を向き、約0.5～0.7ノットの後進行きあしで、右舷船尾部が同岸壁に衝突した。</p> <p>本船が着岸していた千葉港千葉第3区COバースは、長さが約120mで、北西部に隣接する企業岸壁が北東方へ約30m突き出しており、また、本船（全長76.15m）の船首方約20mのところに棧橋があった。</p> <p>船長は、千葉港千葉第3区COバースの離着岸の経験が5回あったので、狭い海域での離岸操船に慣れているという思いがあり、また、船尾配置についていた機関士との間で連絡が十分でなかったと本事故後に思った。</p>
分析	本船は、千葉港千葉第3区COバースから離岸作業中、船長が船尾方の企業岸壁との距離を確認せずに主機を後進としたことから、

	同岸壁に衝突したものと考えられる。
<b>原因</b>	本事故は、夜間、本船が、千葉港千葉第3区COバースから離岸作業中、船長が船尾方の企業岸壁との距離を確認せずに主機を後進としたため、同岸壁に衝突したものと考えられる。
<b>再発防止策</b>	今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。 <ul style="list-style-type: none"><li>・ 船首及び船尾方に障害物があり、限られた海域の中で離岸する場合、操船者は、船首及び船尾に配置した乗組員と適宜連絡を取り、障害物との距離を確認しながら操船すること。</li></ul>